２０２３・１１・１２　　黄金井尚美　主任牧師

成長感謝礼拝

＜１００倍の実を結ぶ＞

マルコ４：１～９

「種を蒔く人のたとえ」

譬えそのものは見慣れた光景。誰もが知っている日常的なこと。

聴いていた人達はイメージができた。

しかし、何を言おうとされたのか、真意はつかみにくいものだった。

＜神のことばが蒔かれた土壌は４種類＞

道端・・・心に覆いがかかった状態。

安息日にしてよいのは、善を行うことなのか、それとも悪を行うことなのか。いのちを救うことなのか。それとも殺すことなのか」・・・彼らは黙っていた。

イエスは怒って彼らを見回し、その心のかたくななのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい」言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。　　マルコ３：４、５

御子イエス・キリストのみわざを目の前で見て、その教えを聞いた。

しかし、彼らはイエス様を信じなかった。パリサイ人らの心はとても固かった。

そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人がむなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。彼らは、その知性において暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいのちから遠く離れています。道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いをむさぼるようになっています。　　エペソ４：17～19

その心のかたくななのを嘆きながら　と　かたくなな心とのゆえに　→　原語は同じ言葉。

「無感覚、硬結」

「硬結」・・・本来やわらかい組織が何らかの理由で硬くなること。

一度イエス・キリストを信じた人が、途中で離れていってしまうのは何故？

譬えからわかる、２つの要因

①外的要因　外側から来るもの　　迫害や、試練。
②内的要因　内側から生じるもの　世の心遣い、富の惑わし、欲望。

「分かる！」には、「心の目が開かれる」が必要。
十字架に架けられて神の御子イエス・キリストが死んでしまったとうなだれて、
エマオの途上にあった二人の弟子。　　（ルカ２４：１３～３２）

しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。【１６節】
彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」　【３１、３２節】

イエス様が聖書を説き明かされた時に「心が燃えていた」自分に、後で気づいた。

種まきの譬えの最後は、「良い土地に蒔かれた種」
聞いていた人たちは、あれ、何かおかしいぞ・・・？

◆神の言葉を受け入れるならば、実に信じられないような多くの実を結ぶ。
どうしたらそのような実を結ぶことのできる「良い土地」になれるのか？
「御言葉を聞いて受け入れる」

【幼稚園の女の子の話】